

# 小児アレルギー性皮膚炎治療から考える 子どもの未来

Webinar

青森県小児科医会

新しい毎日を、私らしく

11月  
24日(金)  
2023

19:00 ~ 20:00

こちらから事前登録をお願いします

[https://zoom.us/webinar/register/WN\\_081AkzBQTLuRwXp8CEih-w](https://zoom.us/webinar/register/WN_081AkzBQTLuRwXp8CEih-w)

スマホから登録



18:50 ~ 19:00 製品紹介

アレルギー性皮膚炎治療薬「デュピクセント」について

サノフィ株式会社 免疫領域営業本部 東日本支店東北営業所 田島 充英

19:00 ~ 20:00



座長 ▶ 藤澤 隆夫 先生 国立病院機構三重病院 特別診療・研究役

演題 ▶ 小児アレルギー性皮膚炎：  
治療の意義・方法とDupilumabへの期待



演者 ▶ 片岡 葉子 先生 大阪はびきの医療センター 副院長 / 皮膚科 主任部長

問合せ先 サノフィ株式会社 田島 充英  
mitsuhide.tajima@sanofi.com

共催：青森県小児科医会 サノフィ株式会社 リジェネロン・ジャパン株式会社

演者

大阪はびきの医療センター 副院長 / 皮膚科 主任部長

片岡 葉子 先生



#### ご略歴

- 1983年 広島大学医学部 卒業
- 1983年 広島大学医学部附属病院 皮膚科 研修医
- 1985年 大阪船員保険病院 皮膚科 医員
- 1996年 大阪府立羽曳野病院 皮膚科 医長
- 1999年 同 皮膚科 部長
- 2006年 同 皮膚科 主任部長
- 2011年 同 アトピー・アレルギーセンター長（兼任）
- 2017年4月 同病院改称 大阪はびきの医療センター
- 2019年4月 同 診療局長
- 2021年4月 同 副院長

#### 抄録

アトピー性皮膚炎は患者QOLに大きな影響を与える。それは成人だけでなく、小児も同様である。外見の変化に加え、掻痒による睡眠障害や集中力の低下が心身の発達に影響を与えることは容易に想像される。さらに小児の食物アレルギーの多くは乳児期発症のアトピー性皮膚炎と関連が深いことも明らかとなっている。その治療戦略は寛解導入、寛解維持であり、小児例の多くは外用療法によって達成可能である。しかし、一部にステロイド外用薬を毎日適切に外用しても寛解維持、あるいは薬剤の減量が困難な難治例が存在する。また思春期に増悪する例ではざ瘡の混在など、治療に難渋することも少なくない。成人では2018年IL4/13受容体抗体Dupilumabが使用可能となり、多くの難治例に福音となった。小児においてもその有効性・安全性が確認され、2023年9月から適用拡大となった。臨床試験の結果を紹介するとともに適正使用について解説する。

sanofi